

人を自由にする道具2

桐山岳大さん

これはとても面白い話だと思
うんです。すっかり怪獣にくっ
ついて、怪獣を体で知って、く
っついて共鳴して、その後離れ
て行く。その時に、この怪獣に
場所を与えるんです。怪獣を排
除：俺に負けたんだからいなく
くなれてというのじゃなくて、
この怪獣に居場所を与える、役
割を用意する、この怪獣に目的
を作って行く。

次はとてもびっくりしたニュ
ースがあったんです。それはね、
北極の熊の話なんです。温暖化
によって海面が上昇し地面がな
くなり今まで歩いて渡れた土地
を泳いでいかなくは向こうへ
いけなくなりました。しかもそれが
泳ぎ切れる距離ではないのだそ
うです。獲物を捕りに行けなく
なって、親が子どもを食べ始め
た。非常に痛ましいことですね。

ヒトが地球を消費したツケを白
熊がこうむっている。

歩いて渡ることができる距離、
あるいは橋を架けると渡れる向
こう側があるということは大切
です。この距離が破壊されてし
まわないように、環境をこれ以
上壊さないようにしないととい
けない。行ったり来たりできたの
に、向こう側がなくなってしまう
たら、向こうへ渡るエネルギー
が行き場がなくなり反転して
自分を攻撃し破壊することにな
るでしょう、恐ろしいことに。
その結果、白熊がみせてくれた
ように、自分の子どもを食べて
しまう。本当は向こう側に行っ
て自分が新しく生きたいのだろ
うが、向こう側がなくなると時
に、自分の子どもという可能性
を殺してしまうことになる。橋
を渡れるという可能性、あるい
はその考え自体を自分で止めて
しまう。これは、虐待で起こっ
ていることですね。

向こう側が、あるということ。

向こう側は恐いだけではなく、
そこに未知があり、少し向こう
に行ってくるだけで、世界が新
しく見えること。そういうこと
を、思い出していけないといけ
ない。

本来は少なくとも、三つの世
界があります。

”現実”と呼ばれる一つ目の世
界、”未知”と呼ばれる向こう
側の世界、その2つの間の世界。
この三つの世界があるのですが、
希望を失い、橋が消え、向こう
側の未知の世界との関係性が切
れ、一つ目の世界だけになって
しまっているんですね。出口が
なくなっているんです。

地球を温暖化し、海面という
無意識や未完了な過去の傷が浮
上りすぎてしまつて、橋を架け
られる距離が海になってしまつ
たということでしょう。ここか
ら、本来あった大地の形にもど
っていくには、どうしたら良い
のでしょうか。まずは、おぼれな
いように”船”や救命ボートが

必要な時です。それが”今”な
のではないのでしょうか。(続)



→ (左の山のまるい三つは、1の講
義の三匹の山羊です。絵本に北歐
民話で「三匹の山羊のがらがらど
ん」があり、橋を渡るときにトロ
ルと聞きます。右図では橋の向こ
うには怪獣が…)。